授業科目名・形態	病態治療学Ⅱ（脳神経外科）演習	必修・選択の別	必修	単位数	2
科目担当者氏名	井上　秀之	実務経験の有無	有	開講期	２年前期
科目ナンバリング	N3-2009npmht				

【授業の主題】

中枢神経疾患についての解剖・生理・病態治療学的な知識を深める。更に、脳神経外科の治療対象となる中枢性疾患の特長、看護するためのポイントとその理論的背景を学び、医療現場での応用力を養うことを主眼とする。

【到達目標】

① 中枢神経系の構造と機能が理解できる。　② 脳神経疾患とその治療について理解できる。
② バイタルサインについて理解できる。　④ 各疾患の看護のポイントを理解できる。

【授業計画・内容】

第１回 脳神経外科看護の基礎知識
中枢神経系の解剖と病態生理を理解する。（意識障害、頭蓋内圧、脳ヘルニア、神経症候、脳脊髄液）
脳神経疾患の看護の基礎を身につける。

第２回 脳血管障害
脳血管障害とは何かを理解する。（閉塞性脳疾患、出血性脳疾患）
脳血管障害の看護のポイントを学ぶ。（刻々と変化する病態への理解を深める）

第３回 頭部外傷・機能的脳疾患
頭部外傷に伴う脳損傷の病態を理解する。頭部外傷後の合併症の病態、看護のポイントを学ぶ。
機能的脳疾患の症候と治療について理解を深める。

第４回 脳腫瘍と中枢神経系感染症
脳腫瘍に共通する病態生理、代表的な脳腫瘍の特徴を理解する。
脳腫瘍の際に現れる特徴的な症候と看護のポイントを学ぶ。

第５回 先天性奇形・その他
中枢神経系の先天性奇形の発生機序と代表的な奇形の特徴を学ぶ。
医療事故を回避するために必要な考え方を実例から学ぶ。

【授業実施方法】

プロジェクターを使用した講義形式で行う。当日、スライドと同等の内容の講義資料を配付します。

【事前・事後学習】

・講義内容に関する事前学習を毎回 30 分以上行うこと。
・講義内容を踏まえ、復習を毎回 30 分以上行うこと。

【授業準備】

内容を十分に理解するには、講義の前に、前回の講義について復習しておく必要があります。

【主な関連する科目】

解剖学、神経内科学、小児科学、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

特に教科書の指定はありません。参考図書としては「系統看護学講座（専門 11）及び（別巻 2)」、 ビジュアルノート（MEDIC MECIA）等が、良いかも知れません。

【参考文献】

特になし

【成績評価方法】

1) 筆記試験 90%　2) 授業態度等 10% により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

脳外科の臨床医として長年勤務。この経験を活かしてより実践的な授業にしたい。

【学生へのメッセージ】

丸暗記するのではなく、個々の疾患の病態を理解することに主眼を置いて下さい。臨床現場で実際に役立つ考え方の基本 “何故そうなるのか” を身につけ、知識だけではなく応用力を高めましょう。